

<目次>

脱脂粉乳・全粉乳情報	一段の安値	… 2-3 頁
バター情報	続落も依然高値圏	… 3-4 頁
カゼイン情報	相場は引き続き低調に推移	… 4 頁
チーズ情報	Arla Foods 社と DMK 社 モザレラ製造で提携 / EPA 最終合意	… 5 頁
ホエイ情報	米国、欧州産相場ともに相場に変化見られず	… 5-6 頁
乳糖情報	先月同様低調	… 6-7 頁
国内情報	全国生乳生産量 15ヶ月ぶりに前年比増加	… 7-8 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
シンガポール駐在員情報	日本食レストラン事情 / フィリピンでの日本式スイーツブーム	… 9-10 頁
中国駐在員情報	育児用粉乳登録の新制度実施、業界の競争環境は改善か	… 10 頁
アムステルダム駐在員情報	オーガニック製品他、市場拡大	… 11 頁
米国駐在員情報	生乳生産量及び在庫数量	… 12 頁
出典		… 13 頁

<粉乳情報>

- 一段の安値 -

- EU -

EU産の脱脂粉乳は先月より更に下落した。EU域外の需要が主であるものの、買い急ぐ需要者は殆ど見受けられず、政府介入在庫も未だ大量に残っている為、需給バランスが崩れた状態が続いている。11月に行われた放出入札の応札量は33,195トンと過去最大となったものの、落札されたのは40トンのみ。EUR 800/MTで応札されたものもあったようで、落札可能な下値を探るものとなった。結果的に落札された40トンはEUR 1,390/mtであったが、放出を開始した当初と比べると落札価格はEUR 300/mt以上下落している。(12月12日に行われた入札の応札量は21,780トン、最高応札価格はEUR 1,300/mtだった為、全量不落となった。)

ただ、約38万トンの在庫を抱えるEU政府にとって、賞味期限が差し迫る在庫もある中、今後落札価格を更に下げるのは止む無しと思われる。今後の数ヶ月で相場が反転する兆候は確認できず、引き続き低調な相場が見込まれる。

EU産の全粉乳はやや弱含み傾向。脱脂粉乳とは対照的に域内消費が殆どで、域外輸出は競争力のあるオセアニア産への太刀打ちが難しい状況。好調な乳量も影響してか2017年1-10月の生産量は前年同期比+3.2%となった。

- オセアニア -

オセアニア産脱脂粉乳の価格は先月とほぼ同じレベルを維持、一部では若干下落した。引き続きEU産の価格に影響を受けているようになかなか値上げが難しい様子。

全粉乳も同様に弱含み傾向。NZの天候不良を受け、予想よりも乳量が伸びていないことで全粉乳の生産量も減少し、それに比例して価格も上昇すると予想していた関係者も多かかった為、この動きは予想外と捉える向きも多い。

最新のgDTの結果は下記の通り。脱脂粉乳・全粉乳共に下落。

(2017年12月19日開催、同年12月5日比較)

脱脂粉乳: USD 1,675/mt FAS(船側渡し価格)、-5.6%

全粉乳: USD 2,755/mt FAS(船側渡し価格)、-2.7%

- 米国 -

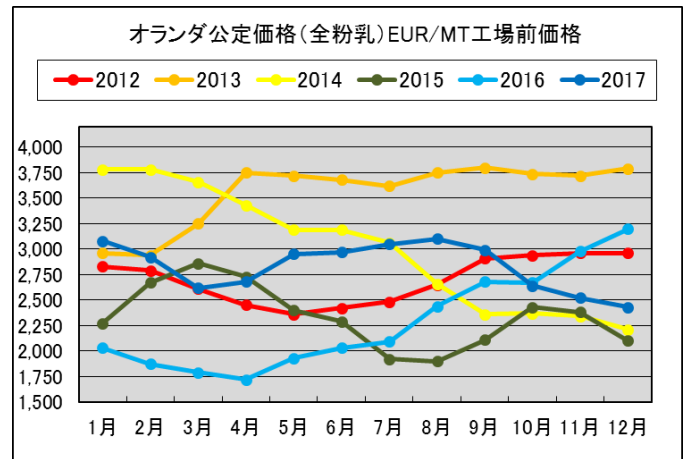
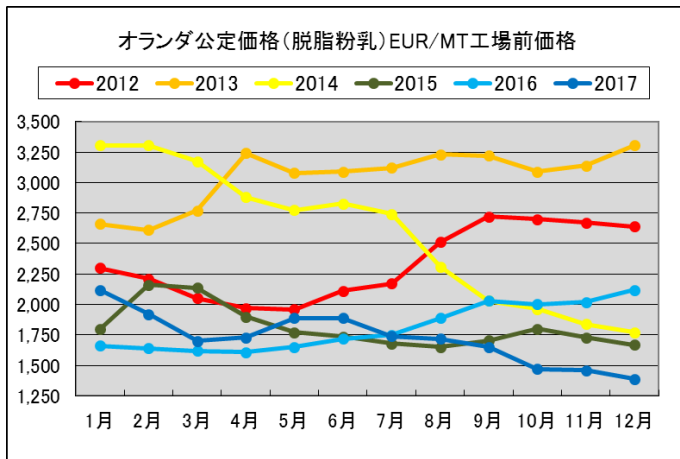
米国のNFDM*の価格も先月から下落。EUやオセアニアとほぼ同じ価格帯で取引されているものの、国内の需要も年々伸びてきているようで、EUに比べると余剰感は薄い印象を受ける。

*NFDM: Non Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

- 今後の展望 -

来年も注目される脱脂粉乳相場は、EUの政府介入在庫が減らない限りは上昇する可能性は低いと考えられる。一方でバターも以前より弱含んできた中、今日の価格帯で取引が続けばサプライヤーは生産者に対して支払う乳価を下げざるを得ない状況になってくることが予想される。その場合、乳量の減少⇒供給量の減少⇒相場の上昇が考えられるが、これから乳シーズンに突入するEUにおいて本当に上記のような流れになるかは未だ想像の域を

出ず、例えそうだったとしても相場に影響を与えるのは第二四半期以降になるだろうと予測する関係者が多い。全粉乳はオセアニアの供給が中心となりそうだが、これからFTAの関係で中国への輸出が増加することが予想され、加えて天候不順が影響して供給量減も懸念されることから、短期的に相場が上昇する可能性もある。次回のgDT(18年1月2日開催)の結果を見ながら早めの調達を心掛けたい。



(現在の粉乳取引価格)

EU 産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,850 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT
 EU 産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,350 – 3,750 /MT CFR ASIAN PORT

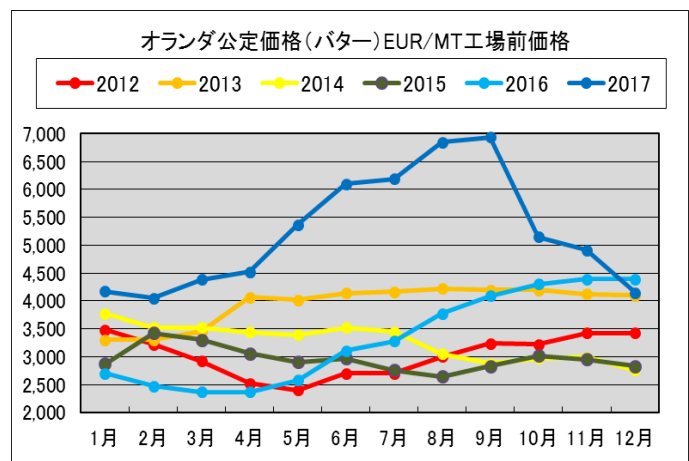
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,850 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT
 オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,000 – 3,400 /MT CFR ASIAN PORT

米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,900 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT
 <清水>

<バター情報>

-欧州-

12 月に入り欧州バター相場は再び急落した。12 月 20 日に発表されたオランダ公定価格は EUR4,220/MT、先月末に発表された価格より EUR690/MT の下落である。英国含む EU28 ヶ国における 1 月から 10 月までのバター生産量は 177 万 6 千トン、前年比 2.6%減と落ち込んでいる。天候不順の影響で 9 月まで不調であった NZ の生乳生産が 10 月以降好調に推移し供給の見通しが明るくなったこと、高騰し過ぎたバター相場についていけなくなった需要者の一部がバターからマーガリンに切り替えたこと、等の要因が重なり相場は下落した。同時に価格が下がるのを待っていた需要者からの引合いは増えている。脱脂粉乳の価格は非常に低値で推移しており、バター相場も下落していることから、プロダクトミックスの観点より、今後各社チーズ/ホエイ生産が優先し、バター生産量減少、それに伴いバター供給がタイトとなることが予想される。



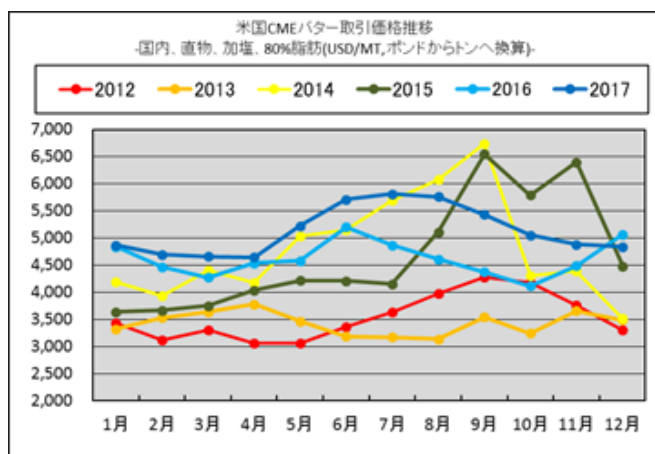
-オセアニア-

12 月の GDT オークションは、AMF、バターともに大幅に下落した。1 回目の AMF 平均価格は USD6,836/MT FAS(船側渡し)と前回(2017 年 11 月 21 日)比 0.7%下落、バター平均価格は USD4,575/MT FAS と前回比 11.1%下落。2 回目の平均価格は AMF が USD6,392/MT FAS で前回比 6.5%下落、バターは USD4,474/MT で 2.2%下落した。豪州の 2017 年 7 月～2017 年 9 月のバター生産量は 1 万 2 千トン、前年同時期比 34%減である一方、同時期のチーズ生産量は 7 万 6 千トンと前年同時期比 6.6%増、全粉乳生産量は 1 万 7 千トンと 24.4%増、となっており、バター生産の優先順位が低いことが窺える。

－米国－

12月の相場は、欧州相場の下落に合わせて下落した。1月から10月までのバター生産量累計は69万2千トンで、前年同時期比0.4%減と僅かに下回った。

11月時点でのバター在庫量は7万2千トンと前年同月比1.5%減となっている。年末需要も落ち着き、例年12月から在庫が積み上がっていく傾向があり、在庫の積み上がり方次第では再び米国が輸出市場に再登場する可能性も考えられる。



2017年12月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.19)

EU産バター価格	USD5,600～USD6,350/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,100～USD5,400/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,800～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,800～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS

<吉田>

<カゼイン情報>

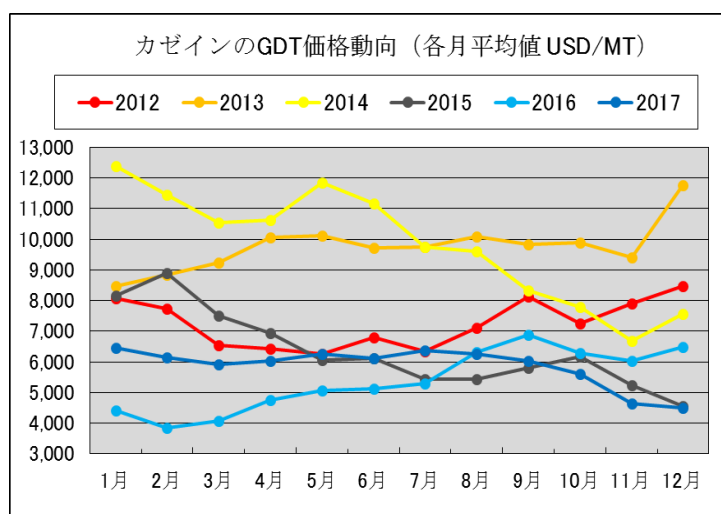
－相場は引き続き低調に推移－

カゼイン相場は大きな変動はなく、低調に推移している。主要産地であるNZ及び欧州の生乳生産量は順調。脱脂粉乳の相場は低調に推移しており、EUの介入在庫が大幅に減少する兆しはなかなか見られない。その為、カゼインの供給も引続き潤沢である。需要面においては、特に大きな要因はなく、引き合いは落ち着いており、供給過多な状態が続いている。低迷を続ける他の乳製品相場の影響もあり、強気な価格交渉に挑むユーザーも少なくない。

今後については、オセアニアの生産量は季節要因による減少も見込まれるものの、EUでは春に向けて生乳生産量の増加が見込まれており、引き続きカゼインの相場は低調な状態が続くと思われる。

－レンネットカゼインのGDT過去3カ月の落札価格－

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年10月3日	USD6,123
2017年10月17日	USD5,612
2017年11月7日	USD5,465
2017年11月21日	USD4,644
2017年12月5日	USD4,879
2017年12月19日	USD4,506



<渡辺(和)>

<チーズ情報>

- Arla Foods 社と DMK 社のモザレラ製造で提携 -

デンマークの Arla Foods 社とドイツの DMK 社はモザレラの製造で提携することを発表した。DMK 社がドイツ北部のデンマークとの国境近くにある同社 Nordhackstedt(ノルドハックシュテット)工場で製造するモザレラ 3 万 5 千トンを Arla 社に供給する。原料となる生乳は Arla 社が約 30~35 万トン供給する。同工場はモザレラを含む約 7 万トンのチーズを現在製造しており、うちモザレラは 3 万 5 千トンという割合である。DMK 社は 1,500 万ユーロを投じて設備を増強し、2018 年後半までにモザレラの専用工場に切り替えるとしている。

両社は 2011 年にホエイで ArNoCo 社というジョイント・ベンチャーを設立しており、2015 年に同 Nordhackstedt 工場ではホエイの処理を開始、今般のモザレラの提携によりモザレラ製造で出てくるホエイも ArNoCo 社に供給され、ホエイの製造量も増加することになる。

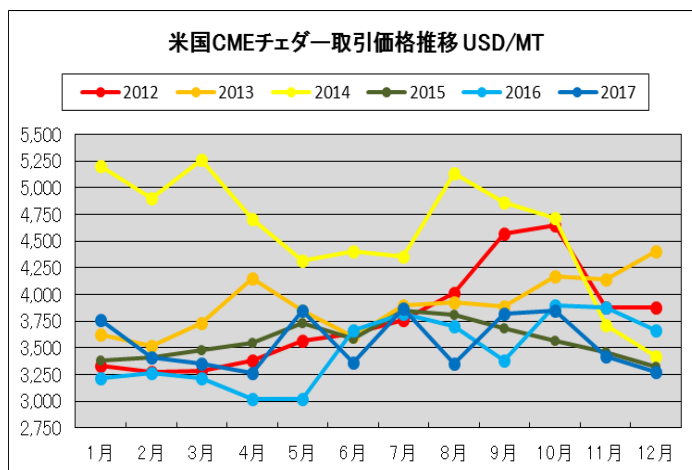
Arla 社によるとヨーロッパ域内のモザレラの需要は 2022 年までに 60 万トンから 72 万トンに増えるの見込みである。両社の今回の提携はヨーロッパのみならずアジア、米国、中東でのモザレラ市場の増加も視野に入れている。

- 日 EU 経済連携協定(EPA)最終合意 -

大枠合意に達していた日本と EU の間で経済連携協定が 12 月 8 日最終合意に至った。2019 年の発効を見込んでいる。大枠合意通りチーズにおいては、ソフトチーズとセミハード・ハードチーズの категория に分けられ、ソフトチーズは枠の数量内で関税を削減し 16 年目までに撤廃、セミハード・ハードチーズは 16 年目までに関税撤廃となる。(現行の関税割当制度は維持される。)

- 米国 CME 相場 -

2017 年 12 月の CME スポット相場は下降を続け、12 月 26 日時点で USD3,280/MT まで下落した。12 月の取引価格としては過去 5 年で最も低い水準となっている。



<斉藤>

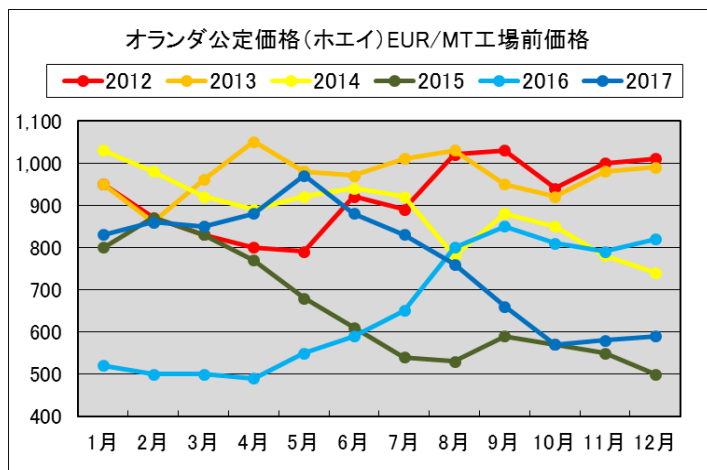
<ホエイ情報>

-米国、欧州産相場ともに相場に変化見られず-

米国産ホエイパウダーの相場は引き続き軟調に推移している。ホエイパウダーに対する引き合いが限られる中、チーズ生産が好調に続いているため、在庫が重い状況となっている。年末に向けて、供給側は在庫量を適正水準に戻すべく、需要者の値下げ要求にも積極的に応じる姿勢を見せている一方で、多くの需要者は 2018 年以降の契約に目を向けており、在庫解消には至っていない。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2017 年 10 月の食用ホエイパウダー生産量は 3 万 6 千トンで、前年同月比 3.1%減。10 月単月の生産量は減少となったが、1 月~10 月の生産量は 39 万 4 千トンで前年同時期比 8.2%増となっており、上述の通り潤沢な在庫がある状況となっている。

欧州産ホエイパウダー相場も軟調傾向においても変化は見られない。狭い範囲で上がり下がりを繰り返すレンジ相場を形成している。多くの需要者は、十分な在庫を有しており、米国同様積極的な買い付けは行っていない様子。

米国产 WPC-34 の相場も前月同様低調に推移している。安定した生産に加え、WPC-34 の代替品として使用される脱脂粉乳/NFDM の価格が WPC-34 の価格を下回って推移しているのが大きな要因。その一方で、育児粉乳用途向といった高規格品については、堅調な需要により、在庫量は適正水準となっている模様。NASS によると 2017 年 10 月の WPC-34 の生産量は 7,076 トンで前年同月比 9.6% 増、前月比 8.6% 増。1 月～10 月の生産量は 6 万 7 千トンで前年同時期比 2.0%。10 月末時点の米 WPC-34 の在庫量は、前年同月比 14.6%、前月比 3.0% 増となっている。



	2016	2017	(%)
オランダ	6,527	6,954	7
フランス	1,936	1,513	-22
ドイツ	11,261	15,163	35
カナダ	3,030	2,703	-11
米国	42,395	40,085	-5
豪州	0	0	-
ニュージーランド	3,142	3,108	-1
その他	1,251	1,899	52
合計	69,507	71,426	3

<土屋>

<乳糖情報>

- 先月同様低調 -

-欧州-

欧州産乳糖相場は、先月と同様に低調。供給面では順調な生乳生産ならびに、好調なチーズ需要により、チーズ、ホエイ、乳糖の生産も安定している。需要面では育児粉乳用途で特別な変化は見られなかった。また EU 介入在庫過剰の影響による脱脂粉乳蛋白調整用途低迷のため、全般に需要は低いままである。

今後については、直近に大きく需給バランスを変動させる要因は見られず、乳糖相場は引き続き低調なままと予想する。しかし、中長期的に見ると、好調な経済と人口政策の転換などを背景に、中国でベビーブームが訪れるといった意見もあり、育児粉乳向け需要が強まることが予想され、徐々に価格上昇の要因となってくる。

-米国-

米国产乳糖相場も依然低迷している。先月と同様に生乳生産、チーズ生産が好調の為、乳糖の生産量も伸びている。11月の生乳生産は昨年対比 1.1% 増、10月のチーズ生産量も昨年対比 1.7% 増、乳糖生産量についても昨年対比 4.1% 増となった。また、米国内在庫は相変わらず高水準を維持しており、昨年対比 24.6% 増となっている。一方需要面は、季節的需要が落ち着きを見せていることや、SPOT 取引で必要数を獲得したため四半期での契約を見送る需要者がいることから、伸び悩んでいる。

今後は、高タンパク製品と乳糖の組み合わせから、ホエイパウダーを生産しようとする傾向が見られることや、乳糖相場が低迷していることから、今後の乳糖生産量と在庫量が、現在のペースを維持していくのは難しいと予想する。しかし、急激に需要が強まる見込みは低いことに加え、EU との価格競争もあるため、引き続き乳糖相場は、低調で進んでいくものとみられる。

-米国からの乳糖輸出量(2017年1月～10月)-

1. 中国	54,538	トン
2. 日本	37,910	トン
3. メキシコ	34,590	トン
4. ニュージーランド	27,639	トン
5. シンガポール	15,306	トン
6. オーストラリア	14,304	トン
7. インド	13,852	トン
輸出量総計	294,622	トン

-米国の乳糖生産量と在庫量(2017年10月)-

乳糖生産量	42,411トン	前年比 4.1%増
月末在庫	63,503トン	前年比 24.3%増

<柴崎>

<国内情報>

- 全国生乳生産量 15ヶ月ぶりに前年比増加 -

- 生乳生産 -

農林水産省が発表した11月の全国生乳生産量は58万2,586トンで、2016年8月以来初めて前年同月を上回った。地域別では北海道が31万5,085トンで前年同月比3.1%増、都府県は26万7,501トンで前年同月比2.3%減となっている。北海道の生乳生産量は3ヶ月連続で前年同月比プラスとなった。

ホクレンが12月22日に発表した12月中旬の生乳受託乳量は、前年比2.2%増の10万2,512トンとなった。生産の主力となる2～4歳の乳用牛頭数が前年度水準に回復してきていることや、本年度産サイレージ等の給餌が開始されていることが寄与し、概ね生産は順調に推移している。

- バター -

農林水産省が発表した11月のバター生産量は3,989トンで前年同月比4.1%減、在庫量は2万3,640トンで前年同月比5.7%減となった。バターの在庫量は15ヶ月連続で前年同月比マイナス。

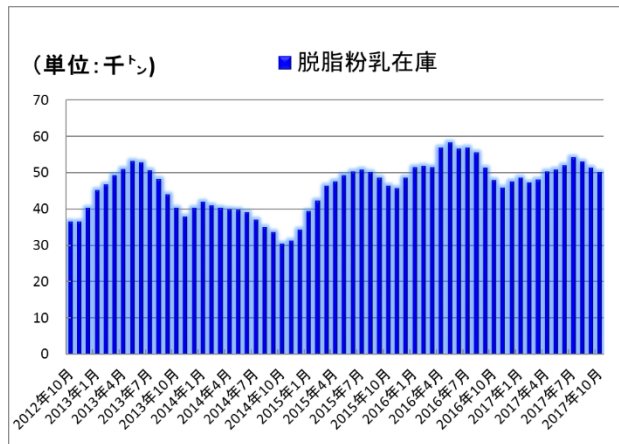
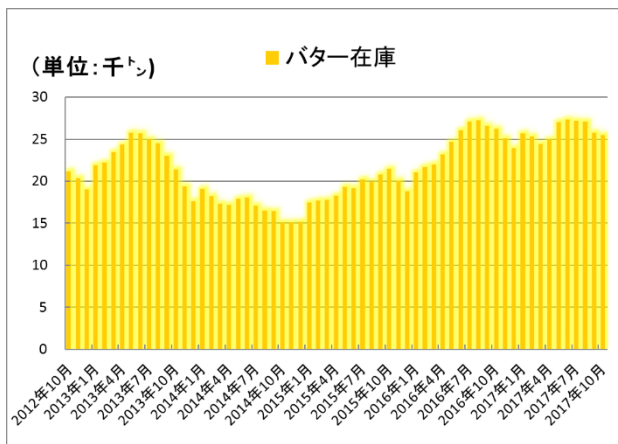
Jミルクの見通しによると、2017年度の生産量は前年度を下回る(5万9,200トン、同93.1%)見通し。しかし輸入売渡しとして、2017年度輸入枠1万3,000トンが順次売り渡されており、2017年度末在庫量は2万8,600トン(前年度末比+4,100トン)と増加する見込みとなっている。

農畜産業振興機構(ALIC)は、11月16日に2,000トンのSBS入札を実施。落札数量は、1,655.0トンで落札率83%、売渡結果の落札平均価格は、1,030,713円/トン。直近では12月14日に2,000トンのSBS入札を実施。落札数量は、1,745.0トンで落札率87%、売渡結果の落札平均価格は869,611円/トンだった。2017年度枠(1万3,000トン)の輸入バターにおいては、4月の入札開始以降一貫して応札率10～30%と低調な応札が続いていたが、高騰していた海外相場の軟調を背景に、来年度以降の不足に備えユーザーの間で物量確保の動きが活発化してくると言えるだろう。

- 脱脂粉乳 -

農林水産省が発表した11月の脱脂粉乳生産量は9,002トンで前年同月比2.0%増、在庫量は49,848トンで前年同月比8.6%増となった。

Jミルクの見通しによると、2017年度生産量はバター同様に前年度を下回る(11万7,700トン、前年比95.3%)見通し。しかし輸入売渡しとして、2017年度輸入枠3万4,000トンが現在順次売り渡されおり、2017年度末在庫量は6万2千トン(前年度末比+1万3,900トン)となる見通し。一方で、脱脂粉乳が原料として使用されているヨーグルトの生産量が増加基調にあることから、2017年度末在庫量が6万トン超えとなるのか、引き続き状況を注視したい。



生乳生産量(2017(平成 29)年 11 月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
平成 29 年度	583	330	30	249	4.1
前年比	100.6%	99.8%	104.0%	101.6%	97.4%

2017(平成 29)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.3
第 2 四半期	25,272	92.9%	35,887	97.2%	53,085	103.3%	4.3
第 3 四半期	29,519	99.0%	36,256	102.0%	49,848	104.6%	4.0
第 4 四半期	34,100	103.7%	39,832	112.7%	50,116	104.0%	4.3
合計	121,535	98.4%	148,618	105.3%	50,116	104.0%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

2017(平成 29)年度、バター-の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第 2 四半期	12,598	87.6%	15,365	110.3%	27,062	101.7%	4.6
第 3 四半期	13,259	95.6%	25,281	102.8%	23,640	99.0%	4.0
第 4 四半期	17,600	103.6%	20,962	127.8%	25,478	104.1%	4.3
合計	60,219	94.7%	77,222	109.3%	25,478	104.1%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

<白井>

＜主要生産国の現行乳価＞

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥100.52/ℓ	2017年10月	¥97.50/kg※2
ドイツ	¥56.15/ℓ	2017年10月	EUR40.34/100kg
オランダ	¥58.11/ℓ	2017年8月	EUR41.75/100kg
アイルランド	¥52.44/ℓ	2017年10月	EUR37.68/100kg
米国	¥46.49/ℓ	2017年11月	USD18.10/100ポンド (100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥38.11/ℓ	2017/18年度	AUD5.60/kg MS(乳固形 kg あたり)
NZ	¥39.59/ℓ	2017/18年度	NZD6.40/kg MS(乳固形 kg あたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥135.00 USD=¥113.00 AUD=¥88.00 NZD=¥80.00

＜出典＞ 日本:農畜産業振興機構 EU:European Commission 米国:CLAL 豪州:Murray Goulburn HP NZ:Fonterra HP

＜シンガポール駐在員情報＞

－ アジアでの日本食レストラン事情 －

2017年の海外における日本食レストランは、2015年の約8万千店から3割増の、約11万8千店となった。統計を取り始めた2006年から約5倍の伸び率となった。世界の中でも、特にアジアでの伸び率が高く、2017年アジア全体での日本食レストラン数は、約6万9千店、2015年から約5割増となった。世界的な日本食ブームは、アジアでも例外ではなく、「和食」が文化遺産として認定され、またアジアでの健康ブームもあり、日本食がアジア全体でも注目されている。

一方で、東南アジアでは日本食レストラン事情は様々である。シンガポールやタイでは、日本食レストランの数が増えすぎてしまい、2017年は減少傾向と言われている。近年伸び率が高いのは、インドネシア、マレーシアである。両国では所得格差はあるものの、高い購買力を持つ層が確実に増加しており、比較的割高な日本食レストランへの出費も増えていると言われている。両国で日本食レストランを運営する上で課題となるのがハラール対応である。ハラールは、原材料や製造工程、商品の品質を厳格に審査し、規格に適合した商品のみ、認証を受けられる。インドネシアでは、ハラール認証食品を基本とするイスラム教は約87%、マレーシアでも61%であり、日本食レストランを経営する上で、最も難しい点である。しかし最近では、アルコール(みりん、醤油を含む)、豚肉を使わない日本食開発も進んでおり、インドネシア、マレーシアでも日本食レストランが増えている理由と思われる。(出典:農林水産省ホームページ)

－ フィリピンでの日本式スイーツブーム －

フィリピンの人口は約1億60万人(2017年)であり、1990年代と比べると人口は約2倍の数字である。人口構成は0～24歳までが約53%と半数以上を占めており、今後益々の経済発展が期待できる国である。そんなフィリピンでは、1日5回食事を取る文化があり、これはスペイン時代からの名残と言われている。一般企業では、10時と16時に休憩時間を取る企業が多く、その時間帯で食事を取る事も多い。その為もあってか、フィリピンでは

一人当たりの米の消費量は世界一という統計もある。その一日5食習慣にあっても最近ブームなのが、日本スタイルのスイーツである。フィリピンでは女性を中心にスイーツを食べる習慣が根強い。フィリピンでも少しずつ健康志向が高まってきており、「日本食＝健康に良い」というイメージから、スイーツに関しても日本スタイルがブームになってきているようだ。特に最近人気なのが「チーズタルト」である。現地では甘すぎず、お腹を満たしてくれるという事で、間食に人気が高いようだ。また最近では“北海道”ブランドも定着してきており、日本スタイルのスイーツは、益々増えてくると思われる。

<勝見>

<中国駐在員情報>

-育児用粉乳(粉ミルク)登録の新制度がまもなく実施、業界の競争環境は改善か-

「史上最も厳しい育児用粉乳新制度」と呼ばれる育児用粉乳の配合登録制度が1月1日正式に実施される。新制度によると育児用調製粉乳は管轄官庁での登録がなければ、生産や販売が許可されない。また外装に許可登録番号を表示しなければならない。

国家食品薬品監督管理総局が近頃発表した最新の乳幼児用粉乳の承認リストには9社合計26種の製品が挙げられた。今回は国家食品薬品監督管理総局の第17回承認リストの発表となる。業界関係者から見ると、育児用粉乳の登録制度は乳製品業界にとっての大きな試練と考えられている。

同時に乳幼児用育児用粉乳の登録はメーカーにとって新たな発展のチャンスとも捉えられており、正式実施期日が近づくにつれ、既に登録した企業は市場開拓に弾みをつけている。

現在既に認証が取れている企業やブランドは注目されている。8月3日に国家食品薬品監督管理総局は、初めて認証取得したブランドのリストを発表した。企業22社89アイテムの乳幼児用育児用粉乳が許可となっており、この中には貝因美、雅士利、欧世蒙牛、飛鶴、伊利、合生元、君樂宝などのブランドがあった。

調査によれば、10月20日まで国家食品薬品監督管理総局は正式登録申請約1100アイテムを受け付けている。今迄に許可されたのは73社422アイテム中国栄養保健食品協会秘書長劉学聡の話によると現在の審査進捗状況から、年末までに約900アイテムの許可が得られる見込み。市場の需要はこれにより基本的に満たされており、申請受付も順調で、育児用粉乳の配合登録制度実施が延期される可能性は殆どゼロと考えられる。

現在、検査で問題があり営業停止となった5社を除いて、乳幼児用粉乳生産会社は103社国内にあることが分かった。このうち90%以上の企業が少なくとも1つのブランドの登録申請を完了している。

登録申請を許可された企業は登録後の新製品の準備を進めている。中国乳製品工業協会名誉理事長宋昆[☒]は育児用粉乳登録実施後の市場占有率には大きな変化が起こると考えており、登録済企業は早い時期に新製品や市場主導権を得ることが出来ると話した。

業界では、育児用粉乳登録新制度は企業間の協力や競争、同時にルート間の連携強化などに大きな影響を及ぼすと考えている。

統計によればと中国の育児用調製粉乳生産企業103社には約2000種類の配合があり、ある一社では約180種の配合を持っている。

育児用粉乳登録新制度が正式に実行されればOEM、委託加工、外国ブランド模倣品が全て市場から撤去される。おそらくブランド数は2000から500以上削減されると考えられる。

業界関係者は、今回の新制度によって生産管理体制が更に強化されることは、国内の育児用粉乳市場にとって重要な点の一つであり、業界の競争環境は改善に向かっていると考えている。

中国食品報:2017年11月7日付け

<アムステルダム駐在員情報>

- オーガニック製品他、市場拡大 -

世界の色々な地域でオーガニック食品の売上げが伸びているが、欧州もその例外ではない。

当地情報によれば、オランダにおけるオーガニック食品の市場規模は、2011年から2016年の6年間で約1.6倍に増え、7億ユーロ(約930億円)となった。乳製品においても同様の伸びを見せており、2011年に3,400万ユーロ(約45億円)の規模だった市場は、2016年には5,300万ユーロ(約70億円)まで成長した。

11月27日のオランダ最大の酪農協であるFrieslandCampina社の発表によれば、12月の通常の生乳の受入価格がEUR41.50/100ℓ(約55円/ℓ)であるのに対してオーガニックの生乳はEUR51.75/100ℓ(約69円/ℓ)となっている。

アムステルダムの住宅地エリアに立地するオランダ最大手の都市型スーパーでの牛乳販売価格は表1の通りで、有機牛乳の占める棚は全体の15%程度となっている。また、クアルク(チーズに分類されるが高たんぱく・低脂肪で主にドイツ・オランダにてヨーグルト同様に食されている)を含めたヨーグルトの販売価格は表2の通りで、有機ヨーグルトの占める棚は全体の7%程度であった。一部子供用にフルーツ風味をつけたカップヨーグルト・NBのプレミアムヨーグルトもあるが、販売されている有機ヨーグルトの95%はプレーンタイプであった。

表2

商 品	量 (g)	価格 (€)
PBクアルク	500	1.27
PB有機クアルク	500	1.89
PBギリシアヨーグルト	500	1.35
PB有機ギリシアヨーグルト	500	1.65
PB子供用カップヨーグルト(6個入)	600	1.39
PB子供用有機カップヨーグルト(6個入)	300	1.09
NB子供用カップヨーグルト(6個入)	300	0.62

※2017年12月19日調べ (A bertHeijn)

商 品	量 (g)	価格 (€)
PBバター	250	2.15
PB有機バター	250	2.29
PBゴータチーズ スライス	190	2.09
PB有機ゴータチーズ スライス	190	2.99
NBゴータチーズ (プレミアム) スライス	150	2.39

※2017年12月19日調べ (A bertHeijn)

呼ばれる牛乳の需要が高まっている。ドイツでは、2016年から2017年に掛けて牛乳の消費量が5.3%減少したものの、有機牛乳は8.6%増、Meadow Milkは33.9%増となった。牛乳消費量全体の中で有機牛乳は8%、Meadow Milkは2%と絶対量は少ないが、今後も成長が期待されている。

表1

商 品	価格 (€)
PB牛乳 (1ℓ)	1.15
PB有機牛乳 (1ℓ)	1.28
NB有機牛乳 (1ℓ)	1.43
PB低脂肪乳 (1ℓ)	1.09
PB有機低脂肪乳 (1ℓ)	1.13
NB有機低脂肪乳 (1ℓ)	1.33

※2017年12月19日調べ (A bertHeijn)

一方、バター・チーズについては、牛乳・ヨーグルトと比較してオーガニック品は市場にそれほど浸透していないようだ。有機バターの占める棚は全体の6%程度、有機チーズについては全体の2%程度となっている。いずれもPB品でのみ取扱いとなっている(価格は表3の通り)。

また、動物愛護を謳った商品は鶏卵・食肉も増えているが、乳製品にも広がってきている。

オランダでは、鶏卵・食肉でオーガニックの基準を満たすことは難しいものの動物愛護に取り組んでいる農家と小売が一体となり、畜種ごとに飼育形態を3段階に分けた「Beter Leven(Better life)」という評価を付けて販売する取組みが行われており、ランク毎の基準をWeb siteで動画を交え確認できるようにしている。

乳製品では、春から秋に掛けて年間120日以上、一日6時間以上、牧草地で放牧された乳牛より生産された「Meadow Milk」と

<藤井>

<米国駐在員情報>

11月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると11月の主要23州の生乳生産量は735万4,800トンで前年同月比1.1%増となった。先月発表の10月の生乳生産量は前年同月比1.3%増の758万1,800トンに修正された。

主要23州における11月の一頭当たりの平均搾乳量は約845キロで前年同月を約4.1キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来11月単月の数字としては過去最高となった。

主要23州における11月の平均乳牛頭数は873万頭と発表され、前年同月比5万7千頭増となったが、前月比では変わらず。

11月の全米生乳生産量

2017年11月の全米生乳生産量は785万4,200トンで前年同月比1%増となった。全米の一頭当たりの平均搾乳量は約835キロで前年同月を約4キロ上回った。また、全米平均乳牛頭数は940万頭と発表され、前年同月比では5万3千頭増となったが、前月比では変わらず。

2017年11月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,444,174トン	-1.1%	(-15,436トン)
ウィスコンシン州	1,110,030トン	+0.9%	(+10,442トン)
ニューヨーク州	540,714トン	-0.3%	(-1,362トン)
アイダホ州	532,542トン	-0.6%	(-3,178トン)
テキサス州	441,742トン	+5.9%	(+24,516トン)
ミシガン州	409,054トン	+2.2%	(+8,626トン)
ペンシルバニア州	399,066トン	+2.1%	(+8,172トン)
ミネソタ州	359,114トン	+1.5%	(+5,448トン)
ニューメキシコ州	296,462トン	+2.0%	(+5,902トン)
ワシントン州	237,442トン	-0.8%	(-1,816トン)

10月の米国産ホエイパウダー、WPCの生産量と在庫量

10月の米国産ホエイパウダー(食用)の生産量は3万5,911トンで、前年同月比3.1%減、2017年単月では最小となった。一方、輸出量は2017年単月では最大の1万9,250トンとなり、過去最高となった前月9月の在庫量の軽減に寄与した。在庫量は4万1,768トンで、前月比6,538トン減となったものの、前年同月比では依然として54.4%増となっている。

低迷するホエイパウダー価格によって、メーカーはWPC製造へシフトする動きを見せており、10月の米国産WPCの生産量は1万8,205トンと前年同月比6.2%増となった。WPCの在庫量は3万4,232トンで2016年1月以降で最も高い水準となった。米国内のWPC需要は低迷しているが、輸出は好調で、10月のWPC輸出量は前年同月を15.5%上回り、単月では過去2番目に多い数字となっている。

11月の米国産バターとチーズの在庫量

11月末の米国産バターの在庫量は7万2,095トンで前年同月比1.5%減、前月比2万6,831トン減となった。対10月の減少幅としては過去5年の平均減少幅である2万1,020トンを上回っており、2016年11月の3万418トンという大幅減に次ぐ減少となっている。過去5年における11月末のバター平均在庫量は5万9,065トンである事からすると、依然としてバター在庫は高い水準にあると言える。

11月末の米国産チーズの在庫量は57万2,040トンで、前月比4,222トン減となったものの、前年同月比では6.4%(3万4,504トン)増となっている。このうち、アメリカンタイプチーズの在庫量は33万2,873トンで、前月比1%(3,269トン)減となったが、前年同月比では過去最高を記録した前年の水準を依然として2.8%上回っている。一方で、アメリカンタイプ以外のチーズ(多くはイタリアンタイプ)およびスイスタイプチーズの在庫量は22万7,136トンで前月比0.6%減となったが、前年同月比では12.5%(2万5,242トン)上回っている。

<佐藤>

お問い合わせ先:
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lacto-japan.com

出典:
AGRA EUROPE 各誌
Dairy Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weeklytimes
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。